

さいたま市長 11月定例記者会見

平成29年11月6日（月曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。  
それでは、記者クラブ幹事社の時事通信さん、進行をよろしくお願いたします。

○ 時事通信 11月の幹事社の時事通信です。よろしくお願いたします。  
それでは、市長のほうからまず議題の発表ということですので、よろしくお願します。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。  
現在さいたま新都心の冬の風物詩であります「さいたま新都心イルミネーション」を実施しております。さいたま新都心駅東西自由通路を中心にしまして、西口のけやきひろば、東口の駅前広場とコクーンシティといった広大なエリアでイルミネーション装飾を展開しています。

また、使用する電力は風力発電やバイオマス発電によるグリーン電力を使用し、環境にも配慮をいたしております。魅力的な光の世界を演出するさいたま新都心のイルミネーションをどうぞお楽しみください。

それでは、早速議題に入らせていただきます。

### 市長発表：議題1「友好都市提携周年記念事業 中国・鄭州市を訪問します」

それでは、議題1「友好都市提携周年記念事業、中国・鄭州市を訪問します」について説明いたします。

訪問の目的ですが、昨年度友好都市提携35周年を迎えました鄭州市を周年記念事業として訪問することで、さいたま市と鄭州市との交流を深め、友好親善を図るとともに、本市施策の参考とすべく、中国で急速に拡大しております自転車シェアサービス等の視察を行うものでございます。

まず、訪問の概要からお話しします。

日程でございますが、11月14日火曜日から11月17日金曜日までの4日間でございます。訪問先は、さいたま市の海外友好都市、中華人民共和国の鄭州市でございます。

訪問者でございますが、私と職員3名の合計4人と、さらに市議会議員の訪問団が4名、また別行程でございますけれども、市民訪問団の皆さんが10名で、総勢18名で鄭州市を訪問し、公式行事などに参加させていただく予定でございます。

次に、鄭州市の概要でございますが、中国の中原の地にあります鄭州市は5市1県と6つの行政区を持つ総面積7,446平方キロメートル、総人口約972万人の河南省の省都でございます。政治、経済、文化活動の中心となっております。

鄭州市は、黄河文明発祥の地でもございまして、およそ3,600年前の城壁など殷代前期の遺跡を持つ歴史深いまちでございますけれども、近年は化学肥料や機械・計器・食品・製薬などの工場が建ち並ぶ新興工業都市としても目覚ましい発展を遂げております。

市の北側に接する黄河をはじめ、市内に35の河川がございまして、以前はしばしば大洪水に見舞われましたが、現在は黄河の大規模な治水工事も完成しまして、農業などにおいて流域住民の生活を豊かにする貴重な水脈として、広範囲に活用されております。

次に、鄭州市との交流について説明いたします。

旧浦和市の時代に市民訪問団が中国訪問を重ねている中で、市民及び市日中友好協会関係者の中で中国の都市との友好提携について検討されました。中日友好協会より鄭州市の推薦があったことから、友好都市提携の運びとなり、昭和54年、1981年に友好都市となりました。

これまでの主な交流として、5年ごとに記念訪問団の派遣を行ってまいりまして、周年記念の訪問を通じまして両市間の友好関係の強化を図っております。また、周年記念事業以外にも、鄭州市の教育訪問団の市立浦和高校視察の受け入れ、これは平成24年でもございましたけれども、また鄭州市の直轄市でございます登封市の訪問団の環境施設視察の受け入れを行っております。これは、平成24年6月、また（平成）28年5月にも実施されました。今回の主な交流は、鄭州市長への表敬訪問と市主催レセプションへの出席となり、関係者の皆さまと面会をする予定となっております。

続きまして、「シェア自転車事業」の視察についてでございます。

特にさいたま市は、「コミュニティサイクル事業」として、市内の複数の

専用駐輪場、サイクルポートを設けまして、そこで自転車を借りたり返したりできる自転車の共有システムを構築しております。中国で提供されているシェア自転車事業とは、各自転車に通信機能が搭載されて、近くで利用できる自転車を検索して、鍵を解錠し、目的地での施錠もすると。そして、利用料の決済などを全てスマートフォンで行える先進的な事例となっております。サイクルポートのような決まった場所に駐輪場がありません。今回視察をすることで今後の「コミュニティサイクル事業」の展開の参考になることを期待しております。

また、これ以外に、貿易を振興するため、関税などの優遇措置が採用される「河南保税物流センター」でありますとか、中国と欧州を結ぶ国際定期貨物列車専用駅、「鄭州国際陸港」などの物流拠点を視察してまいります。

視察の理由としては、さいたま市も、東日本の交通の結節点でございまして、東日本のさまざまな「ヒト・モノ・情報」が集まることを目指しており、東日本広域連携事業を進めております。今後の事業展開に、この鄭州市は、中国で本当に真ん中のまさに陸の重要な結節点になっている都市でもございますので、参考にさせていただきたいと考えております。

また、鄭州市の新都心でございまして鄭東新区におきましては、前回訪問した際はまだ途上でございましたけれども、今回その後の状況なども視察をしてまいります。特に鄭東新区には、大規模なコンベンション施設などもございまして、こういう交通結節点にあるコンベンション施設がどのように活用されているかについても視察をしてまいりたいと考えております。

今回の訪問では、鄭州市との友好親善をさらに深めていくとともに、本市が実施する事業の参考となる事例等についても情報収集をしていきたいと考えております。

## 市長発表：議題2「第3回さいたま国際マラソンを開催します」

続きまして、議題2「第3回さいたま国際マラソンを開催します」についてでございます。

11月11日土曜日、12日日曜日に開催いたします「第3回さいたま国際マラソン」でございますが、11日土曜日は、駒場運動公園で小学生から大人まで楽しめる「駒場ファンラン」を開催いたします。「車いすの部」

や「親子ラン」、「1.5キロメートルの部」、「2時間チームラン」など、4部門を実施いたします。

そして、12日日曜日には、東京2020オリンピックにつながる「マラソン・グランド・チャンピオンシップ・シリーズ」に位置付けられた女子の選考レースと、全国各地から集まる市民ランナーによる6時間制限の「フルマラソン」、及び「8キロの部」を実施いたします。

はじめに、ランナーのエントリー状況について説明いたします。エントリーは全体で1万8,688名。東京2020大会につながる「代表チャレンジャーの部」には、岩出玲亜選手のほか、県内出身の吉田香織選手など119人がエントリーをしております。

「一般フルマラソンの部」は、さいたま市民優先申込枠の2,477人、埼玉県民優先申込枠の964人を含む、1万4,277人がエントリーをしております。また、「8キロメートルの部」は、前回よりも613名増え、1,727人がエントリーをしております。さらに、「2時間チームランの部」も、前回より36組増え、132組がエントリーをしています。

続きまして、コースについて、説明いたします。

12日日曜日の「フルマラソン」には、さいたまスーパーアリーナをスタート・フィニッシュの場所とし、旧中山道や国道463号バイパス、埼玉大通りのケヤキ並木を抜けるコースとなっております。浦和美園駅周辺で、開発が進展したことに伴い、一部コースを変更したほかは、前回とほぼ同様です。

また、「8キロメートルの部」は、「一般（フルマラソン）の部」と同時にさいたまスーパーアリーナを出た後、駒場運動公園でフィニッシュとなります。

続きまして、11日土曜日に開催いたします「駒場ファンラン」のコースについて説明いたします。

駒場運動公園に特設コースを設置して開催します。まず、9時にスタートいたします「車いすの部」につきましては、19名にエントリーしていただいております。コースは、400メートルトラックを1周して、スタジアムの外を走って再び戻ってくる約1キロのコースとなっております。

また、「親子ランの部」、「1.5キロメートルの部」は、トラックを1周

してスタジアムを出た後、サブグラウンドをまわって、(スタジアムに戻って) くるというコースとなっております。

また、「2時間チームランの部」は、スタートしてすぐにスタジアムを出まして、サブグラウンドをまわってスタジアムに戻って、トラックを半周するコースでございます。

特に「車いすの部」、「親子ランの部」は順位やタイムを競うものではないでございます。走ることを楽しんでいただくことを主要な目的としておりまして、タイムは計測いたしません。参加者全員に参加賞としてオリジナルのマフラータオルを用意しているほか、完走した方には完走証をお渡しします。

また、タイム計測をする「1.5キロメートルの部」、「2時間チームランの部」では、成績優秀者、またはチームに、大会スポンサーをはじめ市内事業者などからの工夫を凝らした賞品を用意しております。

「駒場ファンラン」に登場するゲストについて紹介いたします。会場のMCを担当されるのはスポーツの実況などでおなじみの小笠原聖さんです。それから、「駒場ファンラン」を盛り上げていただく応援ランナーとして、FM NACK5でお馴染みのタレント、福島和可菜さん。

女性芸能人の中でマラソン最速記録を持つ福島和可菜さんですが、チームランに参加する皆さんと一緒に体操イベントなどを企画しているほか、一日を通して参加者に熱いエールを送っていただくことになっております。

また、「2時間チームランの部」には、女子プロ野球の「埼玉アストライア」の皆さんと、プロ野球独立リーグで活躍中の「武蔵ヒートベアーズ」の皆さんがゲストチームとして参戦をいたします。また、FM NACK5の番組出演陣からは、小林アナさんを初め、だいすけさん、パーマ大佐など総勢10名のパーソナリティーの皆さんが、2チームを編成して、チームランに参加していただきます。翌日の「フルマラソン」に向けまして、大会を盛り上げながら、家族や友人などとの「きずな」を深める場にしていただきたいと思います。

また、「駒場ファンラン」会場におきましては、商店会と連携したランナーサービスを用意しております。1つ目は、浦和駅東口、北浦和駅東口の

商店会のご協力によりまして、5つの店舗が会場内に飲食ブースを出店いたします。

また、同じ商店会のご協力によりまして、16店舗で、さいたま国際マラソンのナンバーカード（ゼッケン）を提示いたしますと会計時に飲み物などの割引が受けられます。参加される皆さんの楽しい思い出の一つとして、ぜひご利用いただきたいと思っております。

さいたま国際マラソンの主役はランナーだけではありません。大会コンセプトの一つとして「未来をつくる子どもたちに夢と希望を贈る大会となす」ということを掲げております。それを具体化していくために、今年も子どもたちを対象としたプログラムを実施してまいります。

まず、1つ目は「高校新聞部による記者体験活動」で、新聞部員が大会取材する記者と取材を体験し、新聞を作っていくものでございます。大会公式ホームページなどで紹介するとともに読売新聞の記者に講評してもらうことにもなっております。

そして、2つ目は「バックヤードツアー」でございます。テレビの中継車、あるいは記者会見場などを小学生に見学してもらい、テレビ番組の制作現場の雰囲気を体感してもらうツアーでございます。

そして、3つ目は「エスコートキッズプログラム」でございます。国内、海外の招待選手をスタートラインまで案内するエスコートキッズプログラムを実施いたします。こうしたスポーツイベントを通して、社会的な役割を果たしてまいります。

続きまして、コラボイベントとして行われます「埼玉うまいもの市場」について説明いたします。

ランナーの受付が始まります11月10日金曜日から大会当日の12日日曜日まで、けやきひろばで「埼玉うまいもの市場」を開催いたします。さいたま市内をはじめ、県内の魅力ある食べ物、飲み物、物産などを扱うブースが46団体出店し、全国から集まるランナーや観客をもてなし、地域の魅力を発信します。

また、特設ステージでは、高橋尚子さんらによるトークショー、ランナー抽選会、パブリックビューイング、また一般フルマラソンの表彰式なども、けやきひろばで行わせていただきます。

けやきひろば以外でも、大会を盛り上げる仕掛けをしてございます。フルマラソンコース沿道10カ所におきまして、サンバ、音楽、太鼓など伝統芸能の演舞を行う「ランナー応援隊」が組織されております。地域と一体となった盛り上がりを期待しております。

今回、コースでランナーに提供する食べ物については、前回大会よりも数、種類ともに大幅に充実させました。市内、また県内の企業にご協力をいただきまして、バラエティーに富んだメニューを用意しております。また、これ以外にも、走り終えたランナーには、ゴール後、スポーツドリンクとともにパンが全員に提供されます。

次に、ボランティアについて説明いたします。

ボランティアの皆様には、ランナーの受付やコース整理、給水サービスなどでご活躍いただきます。地域貢献のためにと参加する企業、また団体の参加が増えました。また、マラソンの無料出走権など、ボランティアの参加人数に応じた団体参加特典を企画したことによって大変よい反応があって、結果6,400人余りの応募がございました。また、これ以外にも自主的に応援しようという企業などもあると伺っております。

ボランティアの皆様のご協力なくして大会の成功はございません。ボランティアの皆様活動をサポートし、万全の体制で臨んでまいります。ランナー、観戦者、ボランティア、参加した人々全てが主役となるよう、多くの人の心に残る大会をつくっていきたいと思います。

最後に、交通・沿道対策について説明いたします。コースや迂回路に当たります一般道路、また首都高速道路に交通規制告知看板、あるいは横断幕を設置するほか、路線バスの停留所等に運休や迂回の案内を掲出いたします。また、市報9月号と一緒に交通規制チラシを市内全戸に配布しております。また、コース沿道自治会におきましては迂回路図の回覧を依頼しております。また、駅周辺での交通規制告知のチラシの配布のほか、コース沿道事業所等に訪問いたしまして、交通規制に関する協力の依頼をしております。

また、ランニングポリスも走りますけれども、今年も埼玉県警察のご協力をいただき、万全の体制で大会を運営してまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

- 時事通信      それでは、今市長から発表のありました2件につきまして、各社質問をお願いします。

## 議題2に関する質問

- テレビ埼玉      テレビ埼玉と申します。  
    今度の日曜の国際マラソンについてなんですけれども、改めてこのマラソンの見どころとありますか、あとはさいたま市として市民の皆さんにこういうふう楽しんでほしいというところ、何かあったりしますでしょうか。
- 市長      今回3回目となります「さいたま国際マラソン」は、先ほどもお話ししましたとおり、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会の出場のポイントが加算される「マラソン・グランド・チャンピオンシップ」に位置付けられておりますので、そういう意味では女子のエリートランナーのすばらしい走り、この国際マラソンのもう一つの目玉、市民マラソンです。多数の市民の皆さん、全国から来る市民ランナーの皆さんが参加をして、楽しく、またさいたま市の魅力を大いに感じていただきながら走っていただける大会にすることで、ランナーだけではなくて、沿道で応援する皆さん、ボランティアの皆さんを挙げて、みんなでこの大会を盛り上げていこうという大会になることを私も期待しております。
- NHK      NHKと申します。  
    国際マラソンのほうなんですけれども、結構全国各地で、東京マラソンをスタートにいわゆるシティマラソンがブームとなっている中なんですけれども、今回例えばフルマラソンの部でいうと、若干この定員に対してエントリーが少な目というところもあったりして、第3回を迎える今回ですけれども、改めてこのさいたま国際マラソンの認知度とか人気について、市長としてはどのように認識されているのかということと、例えば前回大会第2回から今回に向けて、よりさいたま市の魅力を知ってもらうためにこういうコースも走ることにしたとか、あとあるいは沿道のお祭り感をこういうふう増やしたとか、より工夫を重ねられた点、盛り上げようとされた点がありましたら、教えていただけましたら幸いです。
- 市長      応募状況については、フルマラソンについては、おおむねかなりの割合で埋まっておりますが、定員に達しなかったということについては残念に



思っております。この原因については、また大会終了後にしっかり分析をしていきたいと思っております。

また、今回の大会と前回との違い、あるいは工夫がございますけれども、1つはまずボランティアに、これまで以上に参加をしていただくこと。私もフルマラソンを走った経験がございますが、ボランティアの皆さんとか沿道の応援というのは何よりも楽しくもあり、また一体感もあって、マラソン大会に出ることの一つの喜びにもつながっていきますので、やはりたくさんの方のボランティアの皆さんに参加をいただいて、大会を盛り上げていくこと、前回以上に今回は非常に数が多くなっております。6,000人を大幅に超えているという状況もありますし、これ以外にも幾つかの企業さんでは正式にボランティアとして登録していないのですが、体制を組んでいただいて、応援を含めてやっていただけるという話も伺っております。

また、前回食べ物について、必ずしも全員にうまく行き渡りにくかったということがございましたので、量、それから種類とも充実をさせて、出場していただいた方にできる限り行き渡るように、また満足していただけるように工夫もしております。

また、沿道での応援についても、先ほども「ランナー応援隊」の話もさせていただきました。こういったことも、昨年よりもより一層充実をして、走っている人たちが、いいタイムで走る、完走するということもございますけれども、やはり楽しみながら走っていただくよう、より一層工夫をいたしました。

今回の大会を踏まえまして、また改善をしていければと思っております。

## 議題1に関する質問

○ 埼玉新聞

埼玉新聞と申します。

鄭州訪問についてなんですけれども、日程の中で国際園林博覧会視察、それから上海に移動とあるのですけれども、これについてももうちょっと、どういったことをされるのかというのを教えていただけますか。

○ 市長

この国際園林博覧会は、中国政府と（地方）政府が共同して行う園芸植物業界で最もレベルの高い庭園博覧会だと聞いております。

今年で第11回目となりますが、9月28日から来年の5月までの8カ

月間、鄭州市で初めて開催され、総面積119ヘクタールに及ぶ園内に、74の国内都市、18の海外都市、世界的な庭園設計者が造る94の庭園が設けられていると聞いておりますが、今年、さいたま市は世界盆栽大会を開催させていただきましたので、今後、盆栽などのコンベンション、大会を開く上で、参考にさせていただければと考えております。

○ 事務局 上海につきましては帰路で、鄭州行きの直行便が週に3便しかないため、帰りの便は上海経由で帰ってきます。その中で、さいたま市における先端ものづくり企業の称号でございます「さいたま市リーディングエッジ企業」として認証を受けております「オリジン電気株式会社様」の子会社に訪問させていただきます。

○ 時事通信 幹事社ですけれども、園林博というのは、これは場所は鄭州市なんですか。

○ 事務局 鄭州市です。

## 議題2に関する質問

○ 時事通信 あと、マラソンの件で市長にお聞きしますけれども、去年はフルマラソンの一般の部ということに出られて、今年はどういう形で参加するのか。目的と、参加の形と、チームランのメンバーとか、去年との気持ちの違いなどちょっと教えてもらえれば。

○ 市長 今年、前日の駒場ファンランの「2時間チームランの(部)」に参加をさせていただき予定でございます。一緒に出場するメンバーは、スポーツ振興課の職員と一緒にチーム編成をして走る予定となっております。やはりマラソンを走るということを通じて、健康を市民の皆さんに呼びかけていきたいと思っておりますので、それをみずから率先して、市民の皆さんにお知らせをしていきたいと。

そして、ファンランでは、昨年も実を言うと1周だけ、フルマラソンを走る前日に走ったんですけれども、非常に雰囲気も楽しくて、もちろんタイムを出す、あるいは速く走るということも当然目的に走られる方も多かったですけれども、もう少し楽しく走ることをやったらいいと私自身は感じまして、多くの方々に今回も、私の知り合いにも、参加しませんかという呼びかけもさせていただきましたので、そういう意味では本大会と違った楽しさを感じていただける日にこの日はしていきたいと思っております。

また、当日本番につきましては、昨年はフルマラソンに出場いたしましたけれども、今回はボランティアの皆さんの状況あるいは激励ということで、コースを何カ所かまわって様子を見せていただこうと考えております。

大会がより一層いい大会にできるように、また今回いろいろな形で関わっていきますけれども、そういったものをまた来年度に生かしていきたいと思っております。

○ 時事通信 昨年フルマラソンに参加して、市長が実際にコースを走行して今回の改善につながったことというのは何かあるんですか。

○ 市長 1つは、先ほど言いました食べ物です。これ私も途中は、実を言うとあまり食べることができなくて、1カ所でお菓子と、バナナを食べられたのですが、例えばバナナの出し方も1本出すのではなくて、少し切って食べやすくして出したほうがいいのか、あるいはどうしても前半の方々がかなり多目にとっていってしまうこともあって、後半なくなってしまうようなケースもありますので、そういった部分の出し方であったり、量を工夫したほうがいいのかという話もさせていただきました。

また、ボランティアについても、昨年もたくさんのボランティアに関わっていただきましたけれども、ボランティアの方がたくさんいることが、大会そのものを盛り上げる上で大変重要な役割を果たすと、感じました。恐らく私が完走できたのは、そういったボランティアの皆さん、給水所であったり、多くのところでその水を渡してもらうだけではなくて、プラスアルファの「頑張ってください」とか、「あともう一息ですよ」とか、いろいろな声をかけていただいたり、そういう人と人との触れ合いがマラソンの魅力になっております。そういった点をより一層充実させてほしいと、私なりにランナーとして走って感じたものを担当にも伝えておりますので、そういったことを改善していただいたりして、今回の大会になっていると思っております。

今回また違った立場で大会を見ますので、またそういったことも含めて、さらにまた改善できるように努めていきたいと思っております。

### 議題1・2に関する質問

○ 読売新聞 読売新聞です。

先ほどのお話の中で、ボランティアの方が今年、前回以上に増えている

ということです。どれぐらい人数的に増えているかということと、あとボランティアの方への呼びかけとかで、こういうところを工夫されたとか、特にこういう属性、例えば高校生の方とかが増えているとかというのがあれば教えてください。

あともう一点、鄭州市の関係で、鄭州市との交流について、一般の市民間の交流というものがこれまでどういうものがあったのかというのをもう少し詳しく教えていただいてもよろしいでしょうか。

○ 市長 まず、マラソンのほうからお答えしたいと思います。ボランティアの状況ですけれども、前回の大会は総数で4,758名でした。今回は6,286名でございまして、これ以外にもそれぞれ違った形でボランティアとして応援、協力したいとやっていらっしゃる方もいるようでございますので、恐らく7,000人を超えるような、たくさんのボランティアが今回は支えてくれているのではないかと思います。

今回のボランティアの参加が多かった部分でいいますと、今回からボランティア参加団体の参加人数に応じまして特典を少しつけさせていただきました。例えば10名以上出していただくと、(大会)公式プログラムに団体名を掲載させていただくとか、20名以上にはスタッフ(ウェア)に団体名の表示をさせていただきますとか、活動場所付近で横断幕を掲示していいですよとか、そういう企業としてのCSR的な部分、意向も少し取り入れさせていただきながら、10名、20名、50名、80名とそれぞれ特典をつけた結果、かなり多くの方々に参加をいただけるようになったということです。

また、やはり東京2020大会、オリンピックが本市でもサッカーあるいはバスケットボールの会場になることから、スポーツのボランティアという意識が高まっていることもあると思います。

○ 事務局 ボランティアにつきましては、ただいま市長が申し上げたことのほかに、地域貢献をしたいという企業の申し出がたくさんございまして、そちらの企業の方々のご理解をいただいて、団体で参加していただく企業が昨年に比べて多く増えたというところでございます。

○ 市長 それから、もう一つは鄭州市との市民交流ということで。

○ 事務局 鄭州市との市民交流の件ですけれども、前回の30周年記念のときには

市民訪問団として19名、うち職員1名でございますけれども、19名の方が鄭州市に訪問されております。また、少し遡るのですけれども、それ以外にも鄭州市との友好事業で、平成16年ですけれども、埼玉国際ジュニアサッカー大会に、役員ほか選手20名、合計25名の方が来日されてサッカー大会に出場していただいているという形の交流がございます。

- **読売新聞** 毎年続いているような、例えば高校生がホームステイしたりとか、そういうような交流は。
- **事務局** 毎年交流しているというものではございません。毎年交流しているのは、違う友好姉妹都市ではございますけれども、鄭州市については毎年という形にはなってございません。

## 議題2に関する質問

- **テレビ埼玉** テレビ埼玉です。  
先ほどマラソンの件で、今年はフルマラソンを走らずにチームランのほ  
うだけというお話だったと思うのですけれども、去年走っていたけれども、  
今年走れなくなった理由とかあったりするのでしょうか。
- **市長** 今年は、ご案内のとおり5月に市長選がありましたので、必ずしも十分  
な練習ができていない状況もございます。やはりフルマラソンに臨むには、  
それなりに練習も必要ですし、また昨年出た中で、やはりランナーとして  
出るだけではなくて、いろいろな視点から主催をしている組織の一人とし  
て、また違った視点からこの大会を見て、翌年の大会のより一層の改善に  
つなげていくということも大変重要であると考えまして、今回は、当日に  
ついては、ボランティアの方々を激励したり、あるいはまわらせていただ  
いて状況を把握をすると。前日のファンランに参加をして、もっとファン  
ランを盛り上げられるのではないかと思いますので、そういったことも含  
めて、さらに状況把握をしたいと思っております。

## 幹事社質問1：さいたまクリテリウムの開催を終えて 幹事社質問2：第3回東日本連携創生フォーラム in さいたまの成果と展望について

- **時事通信** 議題のほうはよろしいですかね。  
では、幹事社のほうから2点お伺いしますけれども、11月4日にツール・ド・フランスさいたまクリテリウムが開催されましたけれども、今年

終えたということで、その総括をお願いします。

2点目は、これ11月1日ですけれども、第3回東日本連携・創生フォーラムが開かれました。その成果と、今後の展望、展開についてお伺いをしたいと思います。

○ 市長 それでは、幹事社からの質問に順次お答えしたいと思います。

まず、1点目のツール・ド・フランスさいたまクリテリウムについての総括でございますが、大会前日、当日と天候にも非常に恵まれて、無事に大会を開催することができたと思っております。

会場には、サイクルファンのみならず、小さなお子様からご年配の方まで、かなり多くの方々にお越しをいただいたと。印象としては、これまでの大会以上に子どもたちに、たくさん来ていただいたのではないかと個人的には持っております。

また、新たなコースでの開催となりましたけれども、大きな混乱などもなく、無事に終了することができたことを安堵しているところでございます。これもひとえに、協賛各社、またオフィシャルサポーターズの皆さまをはじめ、警察、あるいは交通事業者等関係機関の皆様、また会場周囲にお住まいの皆さま、事業者等のご理解とご協力によるものでございます。多くの皆さま方に、改めて感謝と御礼を申し上げたいと思います。

今年は、クリテリウムのメインレースを、初めて来日されましたマーク・カヴェンディッシュ選手が優勝されました。特に最後の直線の300メートルが見どころだと申し上げてきたところですが、まさにその300メートルのところが大デッドヒートということで、日本人の別府選手とデッドヒートを繰り広げたところは大変迫力もあり、多くの観客を魅了したのではないかと思います。世界のトップ選手たちが感動と興奮、そして本場ツール・ド・フランスさながらの雰囲気を与えてくれたのではないかと思います。

また、大会を盛り上げていただいた多くの観衆の皆さん、全力でタイムトライアルに挑戦いただきましたパラサイクリングの選手や女子、男子ジュニア選手たちに感謝を申し上げたいと思います。

また、本大会の開催によりまして、国内外のテレビ放送、新聞、スポーツメディアなど、多くのメディアの方々にご協力をいただき、取り上げて

いただきました。「スポーツのまち さいたま」を全国、また世界へ発信ができたのではないかと考えています。

今年は、「さいくり広報部」を設置したり、あるいはSNSでのプレゼントキャンペーンなどを行って、若い世代また自転車のライト層へ、さいたまクリテリウムを知っていただけるようにと力を入れてまいりました。

また、商店街活性化キャンペーンとのタイアップ、またクリテリウムカフェを実施いたしまして、大会をPRしながら店舗へ誘客していけるような取組なども積極的に行わせていただきました。

その結果、さいたまクリテリウム当日だけでなく、大会前から盛り上がり楽しめるイベントとなったのではないかと考えています。スポーツ、そして環境、健康と、こういったことから、また生活に大変密着をしている自転車という乗り物を最大限活用することで、引き続き自転車を活用したまちづくりにつなげていきたいと考えております。

また、今年は(A.S.Oとの)3年契約の2年目になります。来年、3年契約の最終年となりますので、その後の大会実施主体を民間へ移行ということも想定をしながら、今年度中にそれを取りまとめて、現状の課題の整理あるいは今後の対応などについて検討しているところでございます。

さいたま市での開催は、「さいたまは一と」という自転車を活用したまちづくりを行う上での、まさに楽しみのシンボリックなイベントに位置付けております。市民の皆様が誇りに思えるように、そして自転車のすばらしさを大いに感じていただけるようなシンボルイベントとして充実、継続を図っていききたいと考えております。

また、今回終わりました、大会の総括をしっかりと行いまして、議会をはじめ市民の皆様のご理解、ご協力を得られるようにしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

それから、2点目。東日本連携・創生フォーラムについてでございます。11月1日に、第3回東日本連携・創生フォーラム in さいたまを開催いたしました。20の市町から参加がございました。

フォーラムでは、議題1として「商材等の販路拡大について」、また議題2として「商工会議所及び商工会による連携について」、また議題3として

「都市間交流のための広域交通網の充実について」、この3つの議題について議論をさせていただき、連携事業として進めていくこととなりました。

また、このほかに報告事項として、既に行われております連携による地方創生の取組として、那須塩原市、また、みなかみ町から報告があった後に、さいたま市からも（仮称）東日本連携支援センター及び東日本の連携広域周遊ルートについて報告をさせていただきました。

今回のフォーラムで報告のあったとおり、第3回のフォーラムを迎え、東日本の都市同士で具体的な連携の芽が出始めてきていると考えております。この連携の芽を、今回議題となりました商材等の販路拡大で、経済面から太く、また力強いものにしていき、また商工会議所及び商工会による連携で行政以外に、まさに民間主導でこういった連携を展開していただき、さらには広域交通網の充実で、枝を流れる水を増やしていくことを期待していきたいと思っております。

今回3回目ということで、少しずつでありますけれども、さまざまな事業の取組、実績を残しております。私たちとしては、それをさらに大きな幹、大きな流れにしていくために、これらを積み重ねていながら育てていきたいと考えております。

私からは以上でございます。

- 時事通信 今の幹事社質問の2件について、質問があればお願いします。

### 幹事社質問2に関する質問

- 朝日新聞 朝日新聞と申します。

東日本のフォーラムの関係でお伺いしたいんですが、整備を計画されている交流拠点施設なんですけれども、出席された高岡市の副市長さんから、ぜひそこで移住とかのインフォメーションを出せるような場所をと考えていたけれども、ちょっとスケジュールが当初より遅れているので、別のところも含めて検討しているというようなご発言があったと記憶しているんですが、まださいたま市のほうも検討、候補なのだろうという感じがしたんですけれども、そのあたりは高岡市さんとか富山県の自治体に働きかけていくようなお考えはあるのでしょうか。

- 市長 さいたま市としては、今（仮称）東日本連携支援センターについて、平成30年度中の完成を目指して設計作業を進めてございますが、当初の予



定よりも少し工期が長くなっているという状況がございます。

いずれにしましても、高岡市さんのほうで出たいタイミングもあろうかと思えます。これは、予算の関係等いろいろあるのだらうと思えますので、そういった状況なども踏まえながら、できる限り、この東日本連携支援センターのほうにいろいろな形で関わっていただけるように、また引き続きアプローチをしていきたいと思っております。

○ 朝日新聞      そこまで細かいお話をされているかあれなのですが、平成30年度中では間に合わないというような形のお話をされているのでしょうか、高岡市さんのほう。

○ 事務局      特に詳しくどのタイミングというところは、高岡市さんからは伺っていないです。

○ 時事通信      幹事社から。時事通信ですが、連携の芽ということですがけれども、民間も展開してほしいということで、商工会なり商工会議所の参画ということで、どういう効果が具体的に期待されるかというところを少しお願いします。

○ 市長      やはり東日本の連携の部分のかなりコアの部分は、観光であったり、あるいは経済的な交流の部分の大きいと思っております。そのためには、やはり民間企業に積極的に関与していただくと。そしてそれをまさに民間企業の集合体でもあります商工会議所や商工会が、窓口であったり、あるいはコーディネート役であったり、あるいは呼びかけ役であったり、そういった役割を果たしていくことで、より一層こういったものが広がっていくのではないかと思っております。

さいたま市も、東日本連携推進協議会も立ち上がっていますけれども、もっと幅広くいろいろな分野、一部商業的なものだけではなくて工業的な分野も含めて、いろいろな分野で、この連携が当然可能になってくると思っておりますので、そこはやはりビジネスという視点から民間企業の方々にも、民間の発想で積極的に参加をしていただきたい。そういう思いで、商工会議所あるいは商工会の皆さんにぜひ参画をいただくことで、より広がりが出てくるだらうと考えております。

○ 時事通信      ほかに、今の幹事社関係ありますか。  
なければ、その他各社質問があればお願いします。

## その他：上尾市の入札に係る市長及び議長の逮捕について

### ○ 埼玉新聞

埼玉新聞と申します。

隣の上尾市長逮捕の件について伺います。先月末に、官製談合防止法違反などの疑いで、現職の上尾市長、市議会議長が逮捕されるという大変ショッキングな事件がありました。まず、これにつきまして清水市長の受けとめと、さいたま市でこのようなことがあるのかどうか、その2点についてお伺いいたします。

### ○ 市長

お隣の市のことでもありますし、行政のトップと議会のトップが逮捕されるということは、大変大きな、衝撃的な事件であったと思います。

細かい中身については、私たちは存じ上げていませんけれども、さいたま市と上尾市とは、例えば入札等の仕組みであったり、あるいは決裁する流れとか権限というものが違って、上尾は、最後市長さんが、その最低制限価格等決定をするという役割のようではありますが、さいたま市では、これは部長さんが決めるということになっておりますので、そういう意味では私のほうが直接関与している形にはなっていませんので、上尾市と、少し組織とか状況が違っているということはあるかと思えます。とはいっても、私たちもこうした入札等については適正に契約事務が行われて、また執行されなければいけないということの必要性については感じておりますし、また以前は不適正な事務ということでいろいろご指摘をいただいたこともございますので、職員研修を実施したり、あるいは契約事務執行に当たっての行動指針というものを定めて、毎年全庁に通知をし、また研修の中にも取り入れ実施をされている状況にございます。

### ○ 埼玉新聞

特に今回の件を受けて、さいたま市で何か研修等を行うとか、そういったことはございますでしょうか。

### ○ 市長

基本的には、今回の件を受けてということは考えてございませんけれども、ただ、これは毎年しっかり研修としても行っていることでありますので、これをまたしっかりとやってまいります。

## その他：大宮駅始発の新幹線の増発について

### ○ 時事通信

ほかに質問はいかがでしょうか。

幹事社ですけれども、1点だけ。以前もお聞きしたんですけれども、大

宮始発の新幹線の件ですが、当初の2往復が、10月、11月と増えて4往復という形になりまして、さいたま市も先日の成長加速化戦略の中で、素案ですけれども、その中にもその話書いていますが、そういう増発ということを受けて、いかにお感じになっているでしょうか。

- 市長      これは、私たちにとっても大変うれしいことで、臨時列車ではありますけれども、大宮始発の新幹線が4往復、今年やっていただいたということは、私たちが申し上げております大宮始発の一部復活に、大変大きな実績にもなると思っておりますし、さらにこの運動を推進していきたいと思っております。

できれば、こういった臨時列車だけではなくて、今後やはり北海道、東北、上越、信越、北陸、それぞれの新幹線のダイヤを増便するに当たっては、大宮、東京間が非常にダイヤが込んでいるという状況がございますので、ダイヤを増発する際には、ぜひ大宮始発を行っていただくことで、これが円滑にできることになるだろうと思っておりますので、それらをまたさらに今後も働きかけをしていきたいと思います。

- 時事通信      ほかいかがでしょうか。

それでは、ないようですので、役所のほうにお返しします。

- 進 行      以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回開催は11月24日金曜日、14時からを予定しておりますので、よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

午後2時27分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。